

北前船寄港地「次は世界遺産へ」

日本遺産認定祝い地域活性化決意新た

酒田市のガーデンパレスみずほでは28日夜、各地の寄港地の関係者ら約2500人が参加し盛大に祝賀会。くす玉割りや鏡開きで日本遺産認定を祝い、「地域活性化の第一歩」と喜ぶとともに、「次は世界遺産へ」と世界に向けて情報発信していく気概を新たにした。

この日は酒田市の丸山至市長が受け取ったばかりの認定証を手に、北前船寄港地フォーラム名誉会長の新田嘉一平田牧場会長らが入場、拍手で迎えられた。国土交通省鉄道局の水嶋智次長が11年前から手作りで始まった運動だったと経過紹介し、「地域間連携をこのように広げるか。新たなスタートだ」と述べた。

新田名誉会長は2006年3月に北前船コリドール



「北前船寄港地フォーラム」などの関係者が北前船寄港地・船主集落の「日本遺産」認定を盛大に祝った祝賀会。酒田市のガーデンパレスみずほ

会議を開いた際に、「日本海側は何とも日の当たらない地域。かつて富と文化をもたらした北前船を再現しようと言ったのが発端」とし、世界から人を呼び込ん

振り返り、「経済だけでなく文化をつなぐ構想だったから多くの方が賛同してくれた。次は世界遺産を目指し、世界から人を呼び込ん

で地域を元気に住む人を幸せにしていきたい」とあいさつ。丸山市長は「地域の力を結集して勝ち得た。新しい日本海時代を築く」と述べた。

くす玉割りに続いて、酒田市美術館長で同フォーラム議長の小川好氏、事務局を務めるANA総研シニアフェローで同フォーラム副会長の浜田健一郎氏、フィデアホールディングス取締役の町田睿氏、日本観光振興協会理事長の久保成人氏、秋田商工会議所の三浦廣巳会頭、志田英紀県議会議長の6人がお祝いの言葉。「地域経済の問題意識から次は解決に向けて運動の発展、充実を」「郷土を愛する気持ち」が日本遺産につながった。次は世界遺産へ」と述べた。

鏡開きなどに続き、酒田舞娘の踊りを楽しみながら祝宴。「日本遺産」認定の喜びを分かち合った。